

# 五省会ニュース

発行所  
医療法人財団五省会西能病院  
〒930 富山市五福1130  
TEL (0764) 41-2481(代)  
発行人 西能 正一郎

五省  
一 至誠に悔るなりしか  
一 言行に恥ぢるなりしか  
一 氣力に致るなりしか  
一 努力に憾みなりしか  
一 不精に直るなりしか

## 民間活力の米国医療情勢

### 入院は「治療」だけの通過点

#### 病院管理コンサルタント 須磨忠昭

七月八日から同二十六日にかけて、アメリカの医療情勢を視察してきた病院管理コンサルタントの須磨忠昭氏(大阪府寝屋川市成田町)は、九月八、九の両日、西能病院を訪れた。アメリカの最近の情勢について、「民間の病院経営会社や保険会社が医療産業の多角化による活力で動いている。医療費の抑制で、入院がコントロールされた。入院は「治療」だけの通過点となり、入院日数が削減された。このため、病院の病床、平均入院日数が激減している。そこで外来、中間施設、在宅加療などに重点がおかれるようになってきた」とまた、これからの病院運営について「企画力がすぐれ、管理、運営能力のすぐれた人材が必要である」と強調、つぎのように語った。



須磨忠昭氏

バーベキューで  
地区民も患者も  
アメリカの病院は

入院患者のサービス、接遇に、きめ細かい気くばりにとめてくれている。だから患者は、快適に満足した生活を送っている。たとえば、食事を出すとき、ちよつと週刊誌をばさんでおくという具合である。そして、物心両面の企画力、アイデアをふんだんに取り入れている。病院内の駐車場などでバーベキューを開く。これには職員から入院患者まで、地域の人たちも参加して、楽しく語り合う。これは、地域に開かれた病院にながっている。

退院後の  
安心を約束  
退院ロビーで  
病院内には「退院ロビー」といふのがあ

「」というのがある。退院する本人をはじめ、その家族、院長、主治医、看護婦、親しくしていた患者たちが、コーヒーとケーキで語り合う。「おめでとう」と、記念品を贈呈する。

自由裁量を  
認めない病院  
病棟の現場で、「医療の良心がなくなつた」と医師たちは嘆いている。これは、病院が医師の自由裁量を認めないからだ。しかし、医師はバイオニア精神が旺盛で、冒險心がある。危険をおかして未知に挑戦、ダイナミックに動いている。

## 医療費圧縮の波紋

西能 正一郎

昨年の暮、医療法改正案が国会を通り、又老人保健法改正案がこのたびの国会に再登場しまして医療に対する国の姿勢が今までは大幅に変わると思われま

が十兆円、そして年々一兆円ずつも増加しようという勢いです。その中で国の負担してゆく四兆円をなるべく節約したいということから、医療費の圧縮が国の財政立て直しの目標となつてしまいました。

数の枠をはめることが決まりました。今までのように、新進気鋭の医師がほとんど病院を新築して、地域医療に参加していただくという事はかなり困難となり、知事さんは、今までのベッド数の範囲内で、夫々に工夫して、地域の医療を確保しなければという事になります。

## ベッド数の増加に歯止め

### 替わる「半病人」の「半病院」

算の二割以上にもなりますので、早くこの借金をなしくずしにしないとついでに経つてもうだつたあがらない状態です。第三臨調ではその対策が考

に比べて二倍以上にもなります。そのために平均入院日数も二倍、三倍になっていくと指摘されてお

一シングホームの代りに今過剰だといわれている病院のベッドを利用しようという作戦であります。地域における病院のベッド数が増えないで、それがほとんど半病院に替つてゆきますと、本病人の入院するベッドがなくなるのではないかと私共医療担当者は心配しております。

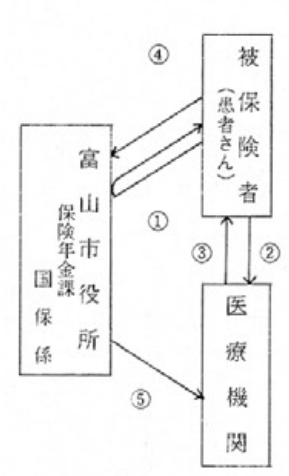
## あすなろ

「味覚極楽」という書がある。その中に昭和の初めの十月ころ、ある味道家のひとと寿司を食べに行った話が載っている。マグロのトロを注文しようとする、トロのうま味は十二月に入ってからで、今ならカジキ、メジの淡白な赤身を握つてもらった方がうまいと教えられたそうだが、いまも寿司というトロが味の王座のようにいわれて値も高い。しかしこれは昭和一というより戦後からの現象で、昔はマグロの赤身に人気があった。日本人の食事の洋風化でアブラ味を好むようになったのが原因らしい。牛肉のシモ降りが好まれるようになったのも同じ味覚の変化からだ。

## 医療福祉制度の手びき

高額療養費受領委任払い制度 (市町村単独事業)

以前、この欄で、保険診療による自己負担額が一月に五万四千円をこえると、こえた額が保険から払い戻されるという高額療養費支給制度について説明いたしました。この場合は、一時的に多額のお金を支払って、あとで(二ヵ月後くらい)、そのなかから五万四千円をひいた額が払い戻されるというのですが、今回は、自己負担額が一月に五万四千円をこえる場合は、医療機関で五万四千円だけ支払っていただき、残額は市町村から直接医療機関に支払っていただくという委任払制度について説明いたします。この制度を利用されますと、一時的に多額のお金を支払う必要がなくなります。



- ① 患者さんは、富山市役所へ出向き、委任払適用依頼書(様式1)意見書(様式2)委任状(様式3)一枚つづりと、高額療養費支給申請書をもつてくる。
  - ② その書類を医療機関に提出。又、一部負担金五万四千円のみを支払う。
  - ③ 医療機関では、書類に必要事項の記入や同意印の押印を行ない、五万四千円の領収証をつけて患者さんにわたす。
  - ④ 患者さんは、書類一式、領収証、保険証を市役所へ提出。
  - ⑤ 市から医療機関に残額が支払われる。
- その他の市町(村)も、様式には多少の違いはありますが、だいたい同じような手続方法です。詳しい事は、病院の医療相談室や、市役所、役場でおたずね下さい。



(医療ソーシャルワーカー・高村美和子)

健康法の問題

矢野三郎

健康法の問題にすると、医者が反面教師になる。健康法を問題にするときに、医者が反面教師になる。健康法を問題にするときに、医者が反面教師になる。健康法を問題にするときに、医者が反面教師になる。

健康法を問題にするときに、医者が反面教師になる。健康法を問題にするときに、医者が反面教師になる。健康法を問題にするときに、医者が反面教師になる。

運動不足、緊張、無理をする

「医者の不養生、坊主の不信心、昔より然り」とあり、さらに、「医者は不養生者をして若死にをし、僧侶は堕落して地獄に落ちる者が多いというわけである。」

夫という楽観主義もあるが、ともかく、他人には胃の内視鏡検査をすすめぬが、一度もカメラを飲んだことのない医師が多いのである。

地区住民と職員が談笑

和やかな住代議士の祝賀会

このたび、自民党副幹のますますの活躍を祝し、地区住民と職員が談笑。和やかな住代議士の祝賀会。

合いの場をもつた。和やかな談笑の二時間だった。席上、住氏は、つぎのようによろこびた。

病歴回顧

新井芳二

看護回顧

上ヶ吹厚子

入院の初体験を話して。先日、他の医療機関で短期間でしたが入院という初体験をしました。



住さん中央を囲んで話が始まる。病歴回顧、看護回顧の続き。

友だちになれた

金明照



富山にきて、初めて病。院のみなさんと一緒に。あるパーティーに出席しました。

それから、病院学会に出席させてもらって。すべての医学の勉強に役立つのに。立ちました。

ねんりん

西能病院のあゆみ

中島「福袋」の話が。でしたが、これは「ボ」ナスとは、どんな関係があるのか。

年あたたかと思えます。正月の三日間を。一日毎に、赤い水引のしめ縄を入りました。

思い出

減った

頭が痛い

お年玉

「減った」お年玉。お年玉は、いいこと。私には、お年玉が。私には、お年玉が。私には、お年玉が。

優勝者。西能正一郎(院長)。西能正一郎(院長)。西能正一郎(院長)。

病院だより

八月

八月。八月。八月。八月。八月。八月。八月。八月。八月。八月。

九月

九月。九月。九月。九月。九月。九月。九月。九月。九月。九月。

わたしはこう思う

(36)

はじめに。富山県の子供たちは、全国でもトップクラスの体格なのだそう。ところが、体力がない。跳ぶ力、投げた力が弱い。

子供たち

吉崎。あなた、労働者か農民じゃないか。前に私にお話し。富山の子供たちは、全国でもトップクラスの体格なのだそう。

遊ぶ相手がいない

出生率の低下は大損失

遊ぶ相手がいない。出生率の低下は大損失。遊ぶ相手がいない。出生率の低下は大損失。

遊ばない

遊ばない。子供たち。遊ぶ相手がいない。出生率の低下は大損失。

子供が少ない

ため損失

子供が少ない。ため損失。子供が少ない。ため損失。

遺体安置所が隣に

遺体安置所が隣に。伊藤。何しろ、忙しい。子供が少ない。ため損失。

一睡もせずに

一睡もせずに。伊藤。何しろ、忙しい。子供が少ない。ため損失。

交通事故の患者が多かった

患者が多かった

交通事故の患者が多かった。患者が多かった。交通事故の患者が多かった。

辛先の若い女性

辛先の若い女性

辛先の若い女性。辛先の若い女性。辛先の若い女性。



「とにかく体を動かすということは、いいことなんです」と吉崎さん。西能院長。運動不足なんです。

わたしはこう思う

わたしはこう思う。わたしはこう思う。わたしはこう思う。

# 大地を踏む

富山市布目

松浦良 男さん (四〇)



愛車の後部トランクから工具箱を取り出し、車椅子の修理に精を出す松浦さん。

## 入院と孫たち

### 哀れ、老いらくの片思い

私は六十五歳一。悩みごとだらけです。太鼓腹でズボンがズルズル。歯がなくて、人並みの食事ができません。女房が小遣金をくれません。数えあげればキリがありません。娘が、これも、みんな「自業自得」「身から出たサビ」ということになりませんか。

「老らくの片思い」の未練話はこれくらいにしておきましょう。

### おなかの大きいおじいちゃん

さて、老人の仲間入りしたわけですが、どうも「おじいちゃん」と呼ばれると、腰がぬけるような気がします。と、いつても、五歳(女)と三歳(男)の二人の孫が盛んに「おなかの大きいおじいちゃん」と連発します。

### 待ちどおしい夕食

私の今の楽しみといえは、やはり、孫たちと仲良く遊ぶのと、毎日の晩酌(ビール一本)です。その生き甲斐の孫たちと晩酌から切り離される羽目になってしまいました。

「しろ」と「あお」の色分け

## 子供の成長を楽しみに

### 車椅子営業マンの生き甲斐

松浦さんは、がんばりやだ。もう十一年間も車椅子の世話になっていて、脊髄損傷(両下肢完全麻痺)のハンディをはねのけて、営業マンとして、愛用車をもって県内の病院や在宅身障者の家庭を駆け回っている。この三月、日本車椅子有限公司(本社・名古屋)の営業所の正社員に昇格した。三年間、準社員として、がんばり通した実績が認められたものだ。身障者の車椅子や杖などの補具をはじめ生活用具の注文をきいて回る。

「あちこちから、はげましの声がかかると、疲れも吹っ飛びます。私も、退院して在宅中、通信教育でトレースをマスターし、三年間、製図の仕事に精をだした。そのかわり、車椅子の商売をサ

私の家には、私を含めて、二人の「おじいちゃん」と、二人の「おばあちゃん」が健在です。それで、孫たちは「小さいチエ」を働かせて、うまく使い分けしています。もう一人の「おじいちゃん」(私の父)は「しろじいちゃん」。頭髪がまっ白だから、二人の「おばあちゃん」の方は、私の母が「しろばあちゃん」。これも白い頭髪から。女房が「あおばあちゃん」。これは、いつも青いエプロンをしているからということ。

「おなかの大きいおじいちゃん」と連発します。〈ちよつと長い、さすがは急所をとらえているわい〉と感心してみたり。気に入らないときは「歯なしじいさま」です。まあ孫だからじつとがまん。

「しろ」と「あお」の色分け

### おみやげ

二日間の外泊を利用して未来のロマンのために「肥満と健康」と「青春を長もちさせる生活と食事」という本に目を通してきました。

でも、やっぱり入院中は、人間改造(心身ともに)に精進し、孫たちにほめられる「夢」をみることにいたしました。

田村記

## Bチームに敢闘賞

### 女子チームではトップ

防火週間最後の日の九月五日、屋内消火栓操法大会が富山市公園で開かれ、富山市内の二十七の事業所から三十八チーム(うち女子チーム十一)が参加、消火技術のスピードと的確さを競った。西能病院から男子Aチーム、女子Bチームが出場した。総合成績でAは十一位、Bは十五位だったが、女子チームの中でトップの成績をおさめ、敢闘賞を受賞した。



優勝をめざして練習をつんできました。優勝できなかったが、女子チームの中で一番でよかったです。はじめての経験だが人生のプラスになりました」と語っています。

## 新規採用

(西能病院)

(事務部) 杉田正治、(看護婦・保健婦) 山本美久保田富夫、木山貴子、香(看護婦) 松田昌子、(看護部) 又井敏子、(栄養部) 広野啓子

## 医療法人 西能病院の診療体制

一般受付時間 (日曜・祭日は休診)

●年中無休・24時間受付の診療体制を敷いております。 ●救急車(2台)は、要請により出動致します。

診療科目	曜日	午前	午後
整形外科	月～土	8:30～12:00	16:00～19:00
リハビリテーション科	月～土	8:30～12:00	13:30～19:00
内科	月～土	8:30～12:00	病棟回診火・夜診(16:00～19:00)
泌尿器科外来	毎月第2、第4土曜日		13:30～17:00
神経内外科外来	毎週木曜日		14:00～17:00
形成外科	毎月1回	8:30～12:00	(診察日は受付でおたずねください)